



ごみの分け方と出し方

青少年のインターネット依存対策

燃物、有害物は月1回、事前に電話連絡いただき、3点まで収集している。

問 循環型社会の構築に向けた取り組みは。

答 天然資源の消費を抑制し、環境負荷の低い「循環型社会」を目指し、市民、自治会、PTA等の協力を得て、引き続き施策を実行していきたい。

問 人的な問題や車両の問題等、課題は多いと思うが、リクエスト収集導入について市長の考えは。

答 自治会管理の収集場所が500カ所以上あるので、自治会の皆さんと最後の詰めが必要だが、地域の個性もあるので全て同じようにいけるわけではなく、労力も時間も費やしているが、実現に向けて努力したい。

青少年のインターネット依存対策

問 厚生労働省が平成25年8月に発表したインターネット

依存の調査結果では、中学生の6%、高校生の9%、男女別では女子10%、男子6%が「依存の疑いが強い」と分類された。依存の疑いが強い人のうち「睡眠の質が悪い」と答えた人は59%と、依存がない人の2倍近くとなり、「午前中に調子が悪い」は24%と、依存がない人の3倍近くとなっている。ネット依存は昼夜逆転などによる不登校や欠勤、成績低下、ひきこもり、睡眠障害や鬱症状などを引き起こすと言われており、視力低下、筋力低下や骨粗鬆症などを招くおそれもある。児童生徒はもちろん、保護者や教師にネット依存の怖さを認識させる必要があるが、ネット依存の実態把握と青少年を守るための取り組みは。

答 内閣府の平成29年度の調査で、小・中・高全体のインターネットの平日1日の利用時間が約159分で、26年度から約30%増であった。昨年度の市内全中学生対象のアンケートでは、約70〜80%がスマホ・携帯を所持し、1日の使用時間が3時間を超える生徒が約30%いた。また全国調査で、今年度の「平日の携帯・スマホの利用時間」が3時間以上の児童生徒は全国平均18.1%に対して橿原市は26.5%であった。昨年2月に「KASHIHARAスマホサミット2016」を開催し、市内全中学校の代表と市長が参加して「スマホ宣言」を策定し、夜10時以降は使わないなどの約束事をクリアファイルにして配布した。今年度、保護者対象の講習会や小・中学校生徒指導担当教員対象の講習会を実施した。畝傍中学校はNTTドコモの協力で「子どもをトラブルから守るために」講座を行い、耳成小学校は「子どもスマホ・ケータイ安全教室」を行った。青少年指導委員は日ごろの見守りや声かけなどを通じてスマホの危険性を指導している。

問 平成27年にWHOの国際疾病分類にネット依存症が盛り込まれた。ネット依存は1カ月程度で重症化することもあり、早期発見が重要だ。遅

刻や欠席、無気力などの子どもが発するサインを見逃さないことが大事だが、小、中学生の健康被害の把握と対策は。

答 裸眼視力1.0未満が小学生で約30%、中学生で半数を超えている。頸椎の湾曲化や就寝時間が午前1時以降の中学生が約30%で、睡眠不足の影響も懸念される。中学校で保護者へのプリント配布や保健の授業、掲示物等で注意喚起を行っているが、学校、保護者、地域が協力して取り組まなければならない。

問 ソフトウェア会社が今年1、2月に小学4年生から高校生まで600人に実施した調査結果で、ツイッターなどの会員制交流サイト(SNS)上に友達や家族に存在を教えない「裏アカウント」を持つ児童生徒が40%であった。インターネット依存による不登校やSNSによるいじめ、ネットトラブルの把握は。

答 昨年度、市内全中学生に実施したアンケート結果で、約10%の生徒が個人情報や写真などを無断で載せられるようになったという事実があった。不登校の要因は、家庭によるも

のが一番多く、ついで友人関係、学業の不振となっているが、友人関係の問題にはスマホ等によるものもあるのではないかと思っている。いじめではパソコンや携帯電話等によるものが数件あった。

問 早期発見、早期対応のため、学校、家庭や地域と連携して本市を担う大切な子どもたちや若年層に適切な対策を推進してもらいたい。青少年のネット依存に対する教育長の考えは。

答 ネット社会は確実に我々の生活に浸透しつつあり、正しく向き合うことが非常に大事だ。視力の低下や睡眠時間減少は大きな問題だ。親が率先してネット、スマホを利用する時代なので、親子ともに啓発をする必要がある。PTAと連携を図ってさまざまな取り組みを行いたい。そして非リアルな自己中心の世界から脱して、現実社会で豊かな人間関係を築く環境をつくっていききたい。

問 昨年度、市内全中学生に実施したアンケート結果で、約10%の生徒が個人情報や写真などを無断で載せられるようになったという事実があった。不登校の要因は、家庭によるも

のが一番多く、ついで友人関係、学業の不振となっているが、友人関係の問題にはスマホ等によるものもあるのではないかと思っている。いじめではパソコンや携帯電話等によるものが数件あった。

問 早期発見、早期対応のため、学校、家庭や地域と連携して本市を担う大切な子どもたちや若年層に適切な対策を推進してもらいたい。青少年のネット依存に対する教育長の考えは。